

平成 30 年度 第 2 回白馬高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

1 日 時 平成 30 年（2018 年）7 月 19 日（木）午前 10 時～12 時

2 場 所 長野県白馬高等学校会議室

3 参加者 8 名（欠席 2 名：宮嶋委員、横川委員）
この他、長野県教育委員事務局高校教育課 2 名
白馬・小谷両村関係者 4 名
白馬高等学校職員 3 名

4 次 第

(1) 開会の言葉

(2) 長野県教育委員会あいさつ（上野高校教育課高校改革推進係長）

(3) 白馬高等学校長あいさつ（臼井校長）

(4) 報告事項

① 学校の現状報告（臼井校長）

② 白馬山麓事務組合からの報告（松澤局長）

【報告についての質疑・応答】

<岸委員>

○ 生徒対象に入学動機や白馬高校を選んだきっかけを調査したデータは、大変わかりやすく、よくまとまっている。国際観光科初の卒業生の進路等が今後の大きなポイントになる。

○ 高大連携事業として東洋大学の出張講義を行っているが、東洋大学、または、国際観光学部やそのような学科をもつ大学へのアプローチは、どのような関係から進めているのか。

<臼井委員>

○ 東洋大学は、村の事業の関係で紹介いただいた。出張講義は大変有意義であった。

<岸委員>

○ ロータリークラブも大学等と以前からつながりをもっている。そのような関係性も白馬高校発展のひとつのポイントになると理解できた。この先の生徒の進路先の充実に希望を感じる。

<横澤委員>

○ 全国からの入学生の入学動機等は、細部まで調査されたわかりやすい資料で、参考になる。

○ しろま祭（文化祭）の合唱コンクールを参観したが、昨年に比べ、多くの保護者が来ていた。運営の面でも生徒・職員間のコミュニケーションが大事にされていると感じた。また、PTAの方が屋台で白馬豚を焼き、販売している姿を見たが、その一生懸命さにも感銘を受けた。生徒・保護者・学校・村がひとつになって、白馬高校を大事にしていることを強く感じ、感激した。

<武田委員>

○ 6 月に、美麻小中学校 9 年生（中学 3 年生）全員が白馬高校の学校見学をした。対話形式の授業を参観したが、白馬高校の先生の授業の進め方や、一生懸命に学ぶ生徒の姿勢に感激すると同時に、子どもたちの中で白馬高校のイメージが大きく変わった様子だった。また、公営塾の講師とつながりがもてた生徒もいて、数名の生徒が、白馬高校受検を意識して積極的に学習に取り組み始めている。この学校見学が、生徒の白馬高校進学につながることを期待している。

○ 前年に比べ普通科の入学者が減ったと思うが、今年の普通科の 1 年生は何人か。

<臼井委員>

○ 今年度の普通科の 1 年生は全体で 29 人。内訳は、男子 9 人、女子 20 人である。

<武田委員>

○ 国際観光科に比べ今年は普通科の入学者が少ないので、普通科の魅力もアピールしたい。



<白井委員>

- 普通科の生徒も落ち着いていて、学力が伸びてきている。1年次に設定する「しろかきタイム」という学び直しの時間で基礎を固め、学年を追うごとにステップアップしている。この部分を外向きにも発信したい。普通科と国際観光科が刺激し合い、相乗効果で活性化するようにしたい。

<岸委員>

- 国際観光科と普通科の3年生の大学等への進学希望の状況はどうか。

<白井委員>

- 4年制大学への進学希望者は、国際観光科は60～70%、普通科は40%ほど。普通科は従来30%程度だったが、国際観光科に刺激を受け、大学への進学希望者数が増加してきている。

<加藤委員>

- 「白馬版デュアルシステム」は大変参考になった。参加した生徒の感想に、「県外の大学に進学する予定ですが、大学卒業後は白馬村に帰って、学んだことを生かして観光業に就職したい」という記述がある。白馬高校の地域貢献の取り組みやキャリア教育は、強くアピールできる部分。中学校でも生徒や保護者に紹介したい。キャリア教育は今後も充実に努めてほしい。
- また、今後の白馬高校の発展のためには、保護者の支援をどう得ていくかが大事になると感じた。アンケート調査結果から、学校選びの上で、保護者経由で生徒が得た情報が大きな要因となっていることが読み取れる。地元の保護者はもちろん、県外の中学生の保護者にも、さまざまな手段で学校の特色を理解してもらうことが重要ではないか。また、そのために現在の白馬高校の保護者から忌憚のない意見を聴取して参考にしていく必要もあると考える。

<白井委員>

- 今後、デュアルシステムの充実に努めるとともに、保護者からの意見聴取も考えていきたい。

(5) 生徒発表

- ・ 学習成果発表（国際観光科2学年の生徒による）
「英語観光ガイドと高校生ホテル」の取り組み

【発表についての意見・感想】

<岸委員>

- 英語ガイドをする中で、日本文化特有の感性や日本語化している外国語をどう伝えるかなど、外国人に人気のある京都、浅草の文化なども参考にして、さらに研究を進めてほしい。

<武田委員>

- 「高校生ホテル」では、ゲストに宿泊してもらうだけでなく、白馬村の観光等の案内もすると聞き、民宿業衰退の中で、原点回帰が必要であると感じた。また、生徒の皆さんが、英語を通して日本の文化にあらためて認識を深めていることを素晴らしいと感じた。皆さんの取り組みが村の発展に寄与しているという自信をもって活動を続けていってほしい。発表の仕方が上手になっている。ますます活躍してほしいと思う。

<白戸会長>

- 英語を喋れないということは、語学力が足りないのではなくて、喋る内容がないということだと、自身は学生時代に気づいた。自分たちの文化、地域、国に誇りをもって学ぶ、知るという姿勢がない限り、喋る内容を見出すことはできない。白馬高校の生徒の皆さんには、白馬村、小谷村、長野県の素晴らしいところを高校時代に勉強することによって、語学力も伸ばさせてほしいと考える。経験者のアドバイスとして参考にさせていただいたらありがたい。

(6) その他

- 第3回学校運営協議会は11月12日（月）午後開催の予定。

(7) 閉会の言葉